

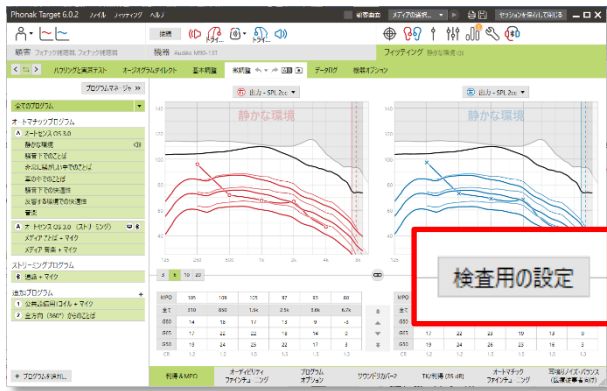
Phonak Target

検査用の設定について

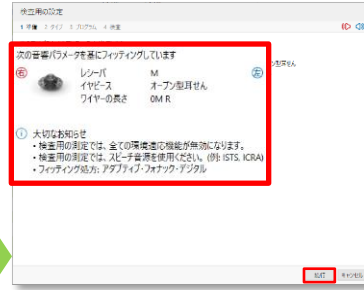
Phonak Target には補聴器の装着状態での周波数特性測定を行うための「検査用の設定」をご用意しています。この機能は、「フィッティング」タブ内の「微調整」画面にある、利得と MPO 画面からアクセスできます。

操作方法 (画像は Phonak Target 6.0.2)

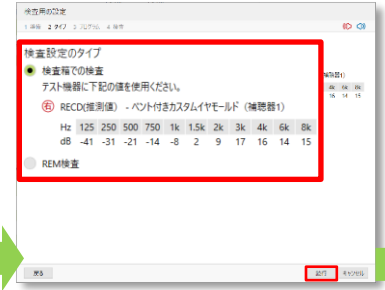
※検査用の設定で測定する際は、補聴器を接続状態に維持したまま測定してください。



1. 【フィッティング】タブ>【微調整】>【利得と MPO】画面にある【検査用の設定】をクリックします。



2. ウィザード形式で進みます。補聴器の音響パラメータ内容が検査用の設定内と同じであるか確認します。【続行】をクリックして次に進みます。



3. 測定のタイプを選択します。補聴器特性測定装置を使用する場合は、「検査箱での検査」を選択します。RECD (実耳カブラ差) の値が表示されます。「続行」をクリックして次に進みます。



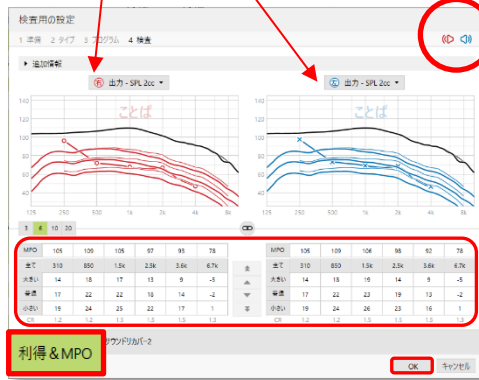
4. 「作動プログラム」測定に使用する補聴器のプログラムをスタートアップ、もしくは他のプログラムから選択します。

「調整した内容の反映先」検査中に行った補聴器の調整内容を検査中のプログラムのみ反映するか、他の全てのプログラムにも反映するかを選択します。

「続行」をクリックして次に進みます。

出力/利得表示の切替 (検査音: スピーチ)

補聴器のマイクロホン オン/オフ(ミュート)



5. この画面で全てのサウンドクリーニング機能 (ノイズブロックなど) が無効になります。

補聴器を接続させ、上図画面を開いた状態のまま補聴器の特性を測ります。測定した結果を確認しながら「利得/MPO」画面からは利得の微調整を、「サウンドリカバ-2」画面からはサウンドリカバ-2の微調整をすることができます。

(「サウンドリカバ-を調節」をクリックして調節スライダーを表示させてください)

「OK」をクリックして終了すると、直前の微調整画面に戻ります。

